語り継ぐべき藍染、
そして語り継がれるデニムの創出

「阿波正藍染」は、“通産産業大臣指定伝統工芸”、“徳島県無形文化財指定”の日本伝統の染め技法です。
これまでも本藍染めの名を持つデニム生地・製品は数多く世に出されてきましたが、クロキではもう一度「阿波正藍染」の原点を見直し、「阿波正藍染」の特性・魅力をより深く伝えるデニムを、ひとつのグループとしてカテゴライズしました。

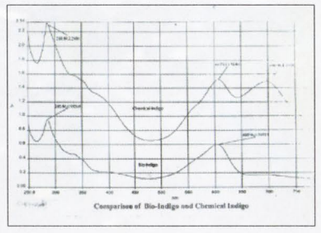
JAPAN SPIRITS

和魂藍®

ジャパンスピリッツ　わこんあい

これは、日本古来の伝統を継承した藍染めデニム。そして、新たな伝統として進化させた藍染めデニムの総称。日本国内のみならず、グローバルに匠の技を伝えるデニムとして世界に向けて発信していきます。（商標登録出願中）

「阿波正藍染法」を徳島県指定無形文化財として指定した指定書



「天然藍と合成インディゴの成分を分析したグラフ(FEAT Lab調べ)

天然藍染(総(かせ)染め)の特筆すべき2大ポイント

■つなぎ節

つなぎ節は原反表面に現れるコブ状の塊(結び玉)のこと。
天然藍染めは、糸を束ねた総を藍甕の中の藍液に漬け、糸にインディゴホワイトを付着させては引き上げて絞る（十分空気に触れさせて酸化させる）という作業を、３０回あまり繰り返します。一人の人間がこの作業をするのですから、一回の作業で染められる糸の量は、機械化オートメーションによる人工藍ロープ染めの比ではなく非常に少ないものです。また、３０回も繰り返すため、糸にとっては負担も大きく、総の所々で糸切れもあり、糸と糸を結びつなぐ必要が生じます。それがすなわち、つなぎ節として原反の随所に現れ、独特の風合いを醸し出します。

■酸化ムラ

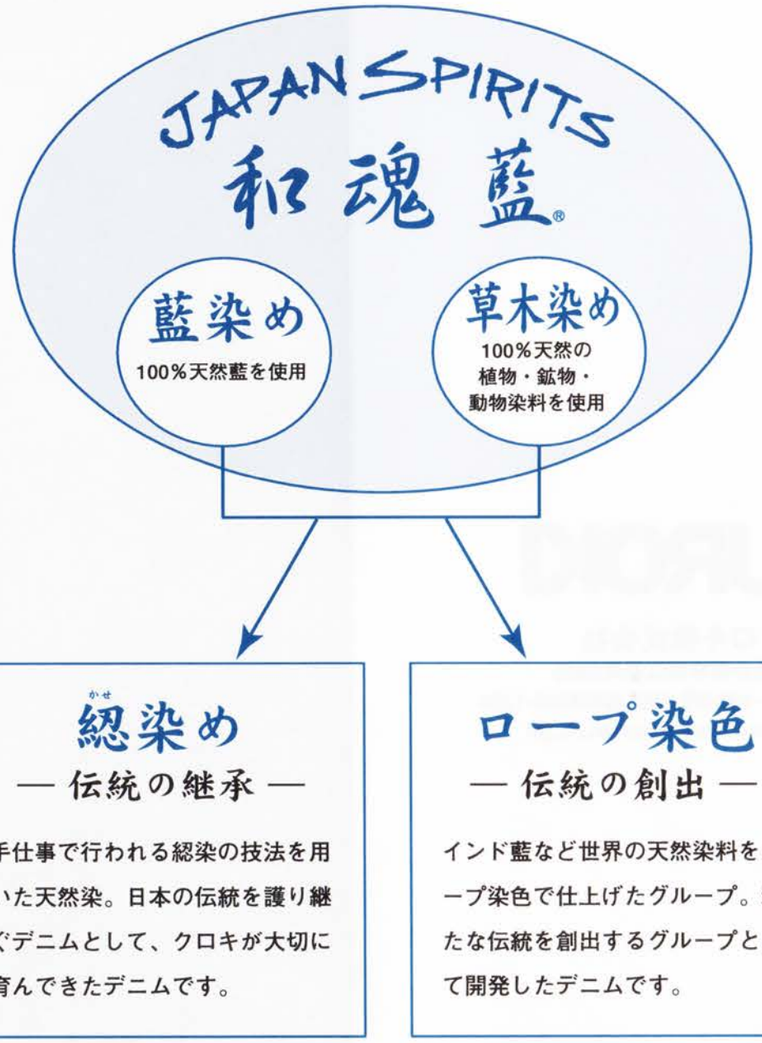
藍染めは、空気に触れされることにより酸化させて藍色に発色させます。そのため、総を絞り空気に触れさせる工程で、総の束のなかで空気に触れにくい部分が出てきます。その部分は酸化しにくいため、当然藍の発色も弱くなります。これを酸化ムラと言います。天然藍染めデニムの原反には、この酸化ムラのため、タテ糸が所々数センチのタテ筋となって薄くなっている部分があります。これもまた、天然藍染めデニム独特のもので、天然藍染めデニムの証あるのです。

JAPAN SPIRITS
和魂藍®

藍染め

天然藍本来の風合いを最大限に表現した「綛染め」の生地、そしてロープ染色により天然藍の可能性を追求した「ロープ染色」の生地をラインナップしています。

MAP



綛(かせ)染め
— 伝統の継承 —

手仕事で行われる綛染の技法を用いた天然染。日本の伝統を護り継ぐデニムとして、クロキが大切に育んできたデニムです。

ロープ染色
— 伝統の創出 —

インド藍など世界の天然染料をロープ染色で仕上げたグループ。新たな伝統を創出するグループとして開発したデニムです。